

第121期 報告書

2012年4月1日 ▶▶ 2013年3月31日

CONTENTS

企業ミッション等	1
株主の皆様へ	2
中期経営計画(2013年度-2015年度)の概要	5
営業の概況	7
財務諸表	10
主な研究開発品の状況	11
トピックス	12
株式の状況	13
会社の概要	14



鳥居薬品株式会社

証券コード 4551

企業ミッション

鳥居薬品は世界に通用する医薬品を通じて、
お客様、株主、社会、社員に対する責任を果たすとともに、
人々の健康に貢献します。

お客様、株主、社会、社員に対する責任とは、高品質の事業活動によって生み出される資金を循環／
拡大することを通じて、お客様、株主、社会、社員の四者に対する責任をバランス良く果たし、満足の
総和を高めていくことであると考えます。

4Sモデル

CS：お客様に対する責任

より良い薬、正しい情報を医療関係者を通じて患者様に提供することにより、人々のQOL (Quality Of Life) 向上に貢献するように努めます。

SS：社会に対する責任

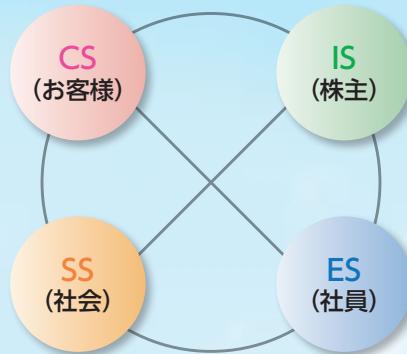
高度な倫理観を保持し、社会要請に応じた事業活動を通じて、より良き企業市民となるように努めます。

IS：株主に対する責任

適時適切に会社情報を開示するとともに、適正な利潤の還元と企業価値の増大を図るように努めます。

ES：社員に対する責任

個々人を尊重し、成長の機会を均等に与え、公正な評価に基づく処遇を推進することにより、働きがいを実感できるように努めます。



CS : Customer Satisfaction
SS : Social Satisfaction

IS : Investor Satisfaction
ES : Employee Satisfaction

行動宣言

私たちは、お客様の信頼を高めるために、
柔軟に考え、連携し、機敏に行動します。

株主の皆様へ



株主の皆様には、
平素より格別のご支援を賜り、
厚く御礼申し上げます。

2013年6月 代表取締役社長

高木正一郎

社長就任のご挨拶

本年6月20日付で、松尾紀彦前社長の後任として、代表取締役社長に就任いたしました高木正一郎でございます。創業より140有余年の伝統を重ねる鳥居薬品の社長という責務の大きさに、まさに身の引き締まる思いがしております。

当社は、前中期経営計画の3ヵ年（2010年度-2012年度）において、売上が大幅に増加したほか、積極的な研究開発投資を行い、「TO-194SL（スギ花粉症に対する舌下免疫療法薬）」および「JTT-751（高リン血症治療薬）」の製造販売承認申請、日本たばこ産業株式会社からの抗HIV薬「スタリビルド配合錠」の導入等、今後の成長基盤の充実・強化を図ってまいりました。

この4月に策定・公表した「中期経営計画（2013年度-2015年度）」では、これらの成果をも踏まえ、重点領域である「腎・透析領域」「皮膚・アレルギー領域」および「HIV領域」の3領域を中心に、私たちが培っ

てきたノウハウ・技術を活かした事業戦略を強力に押し進めていくことで、より一層の事業成長を図ることといたしました。また、ALK-Abelló A/Sから導入したダニを抗原とするアレルギー疾患を対象にした免疫療法薬「TO-203（舌下錠）」および「TO-204（注射剤）」をはじめとする研究開発は、成果につなげるよう引き続き推進してまいります。

「世界に通用する医薬品を通じて、お客様、株主、社会、社員に対する責任を果たすとともに、人々の健康に貢献する」という企業ミッションのもと、製薬企業としての使命を着実に遂行しつつ、医療や人々の健康に貢献し続ける企業として、持続的成長の実現に向け全力で取り組んでいきます。

株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

株主の皆様へ

Q 2012年度の業績について聞かせてください。

A 売上高は大きく伸長したものの、研究開発への積極的な投資により利益は減少しました。

医薬品業界を取り巻く事業環境は、2012年4月に実施された薬価改定の影響に加え、後発医薬品の使用促進策等の医療費適正化に向けた医療制度改革の推進により、引き続き厳しいものとなりました。このような状況の下、当社は「レミッチカプセル」「ツルバダ配合錠」等が伸長したことにより、2012年度の売上高は522億円と前期に比べ35億円増加し、創業以来、初めて売上高500億円を突破することができました。

利益面では、営業利益、経常利益、当期純利益ともに前期に比べて減少しましたが、これは研究開発への積極的な投資を行ったことによるものです。「TO-194SL」および「JTT-751」の製造販売承認申請のほか、「TO-203」についても第Ⅱ/Ⅲ相臨床試験を開始する等、開発面で大きな進展がありました。

(単位：億円)

	前 期 自 2011年4月 1日 至 2012年3月31日	当 期 自 2012年4月 1日 至 2013年3月31日	対前期増減 (率：%)
売上高	487	522	35 (7.3)
販管費	240	266	26 (11.0)
(うち、研究開発費)	46	78	31 (68.9)
営業利益	41	27	△13(△32.7)
経常利益	43	29	△13(△31.9)
当期純利益	26	18	△7(△29.2)

Q 前中期経営計画（2010年度-2012年度）の取り組みおよび成果について聞かせてください。

A 研究開発の推進、売上高の大幅な伸長等、大きな成果がありました。

2010年4月に公表した3カ年の中期経営計画「PLAN鳥居2012」では、経営目標として「2012年度 売上高510億円、営業利益25億円、当期純利益16億円※」を掲げ取り組んでまいりました。

結果、事業成長の牽引役として位置づけた「レミッチカプセル」を中心とする「腎・透析領域」および「ツルバダ配合錠」を中心とする「HIV領域」の伸長により売上高が大幅に増加したほか、研究開発では「TO-194SL」および「JTT-751」の製造販売承認申請、ALK-Abelló A/Sからのダニを抗原とするアレルギー疾患を対象にした免疫療法薬および日本たばこ産業株式会社からの「スタリビルド配合錠」の導入等、大きな成果があった3年間と認識しております。

(単位：億円)

	PLAN鳥居 2012 経営目標	当 期 自 2012年4月 1日 至 2013年3月31日	増減額
売上高	510	522	12
営業利益	25	27	2
当期純利益	16	18	2

※「PLAN鳥居2012」の経営目標の数値については、2011年5月11日に修正し公表したものです。



Q 新中期経営計画について聞かせてください。

A 今後の持続的成長を確かなものとするため、着実に諸施策を進めてまいります。

2013年4月、新たに3ヵ年（2013年度-2015年度）の中期経営計画※を発表いたしました。

新中期経営計画におきましては、「スタリビルド配合錠」「TO-194SL」および「JTT-751」の円滑な上市により、重点領域である「腎・透析領域」「皮膚・アレルギー領域」「HIV領域」を育成し、さらなる事業成長を図ってまいります。また、「TO-203」および「TO-204」をはじめとするアレルギー領域の研究開発を推進するとともに、新規販売品・開発品の導入も進めてまいります。

剰余金の配当につきましては、2015年度において、1株当たり年間48円の配当を目指します。

新中期経営計画で掲げた課題を着実に達成すべく、全社一丸となって取り組んでまいります。

※詳細は、5～6ページ「中期経営計画（2013年度-2015年度）の概要」をご覧ください。

Q 2013年度の見通しについて聞かせてください。

A 新製品の早期浸透、既存品のシェア拡大による業績向上に注力するとともに、研究開発を推進してまいります。

新中期経営計画の初年度である2013年度につきましては、重点領域である「腎・透析領域」「皮膚・アレルギー領域」「HIV領域」における既存製品のシェアの維持・拡大による業績向上を目指すとともに、「スタリビルド配合錠」および「TO-194SL」の円滑な市場投入・早期浸透に注力してまいります。

また、「TO-203」および「TO-204」をはじめとするアレルギー領域の研究開発を推進してまいります。

売上高は555億円を見込んでおりますが、利益面については、主に、新薬の円滑な上市に向けて経費が増加することから、2012年度とほぼ同水準となる見込みです。

なお、配当金につきましては、1株当たり年間40円（中間配当金20円、期末配当金20円）を予定しております。

今後とも、さらなる企業価値向上に努めてまいりますので、株主の皆様におかれましては、より一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

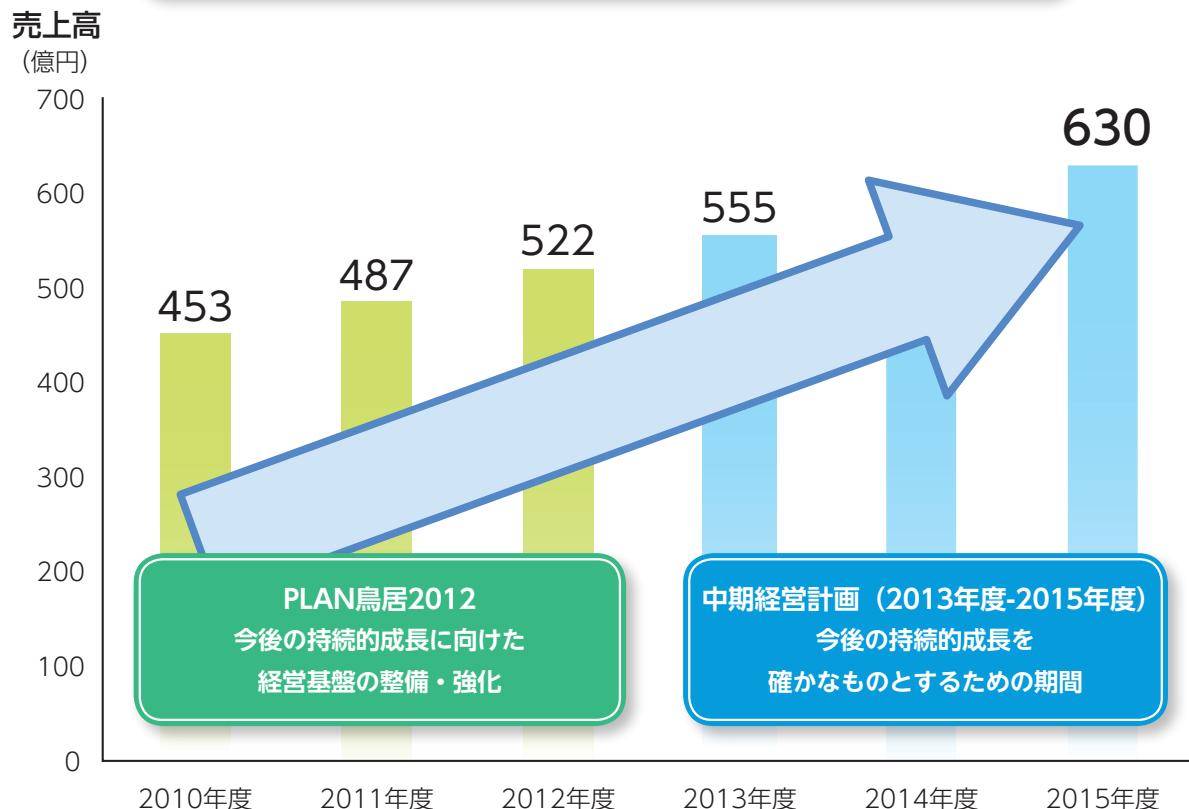
（単位：億円）

	当 期	次期予想	対前期増減 (率：%)
	自 2012年4月 1日 至 2013年3月31日	自 2013年4月 1日 至 2014年3月31日	
売上高	522	555	32 (6.1)
営業利益	27	27	△0 (△3.4)
経常利益	29	28	△1 (△5.2)
当期純利益	18	17	△1 (△8.1)

中期経営計画（2013年度－2015年度）の概要

新中期経営計画におきましては、今後の持続的成長を確かなものとするため、新製品の円滑な上市を図りながら、ダニを抗原とするアレルギー疾患を対象にした免疫療法薬をはじめとするアレルゲン領域の研究開発を推進してまいります。

中期経営計画期間中の施策を着実に推進することで、
経営目標の達成を目指します。

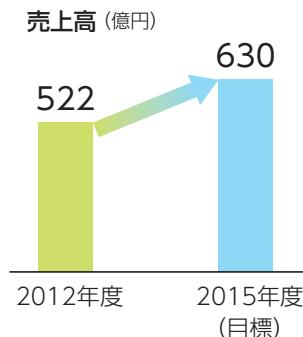


Point 1 : 主な施策

- 「スタリビルド配合錠」 「TO-194SL」 および 「JTT-751」 に関し、市販後の安全対策の実施も含め円滑な上市を行い、重点領域である「腎・透析領域」「皮膚・アレルギー領域」および「HIV領域」の育成による一層の事業成長を図ります。特に「TO-194SL」の上市によるアレルギー免疫療法の普及に取り組みます。
- 「TO-203」 および 「TO-204」 をはじめとするアレルギー領域における研究開発を推進し、研究開発活動を充実・強化するとともに、新規販売品・開発品の導入を目的として、導入活動も進めてまいります。
- 前述の上市品を中心とした安定供給・品質保証体制の一層の強化に努めるとともに、原材料コストの低減、生産性の向上等をさらに推し進め、コスト低減にも努めてまいります。

Point 2 : 経営目標

	2012年度実績	2015年度目標	増減額
売上高	522億円	630億円	+107億円
営業利益	27億円	55億円	+27億円
当期純利益	18億円	35億円	+16億円

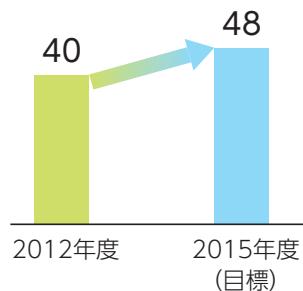


Point 3 : 配当方針

当社は、株主の皆様への適正な利潤の還元を経営の重要課題の一つと認識し、剰余金の配当につきましては、安定的かつ継続的に実施することを基本方針としております。

上記基本方針の下、経営体質の強化や将来の事業展開等を勘案した中長期的な視野に立った投資等を行うことに備えつつ、株主の皆様々に安定的還元を行うこととし、2015年度については、1株当たり年間48円の配当を目指します。

1株当たり年間配当金 (円)

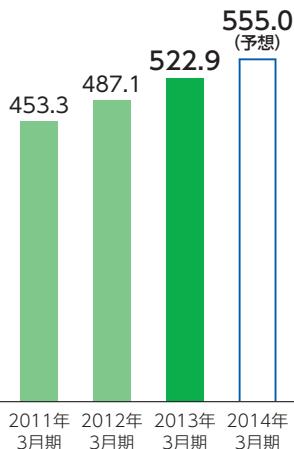


営業の概況

決算ハイライト

売上高

(億円)



当期実績

522.9 億円

前期比 35.7億円増↑

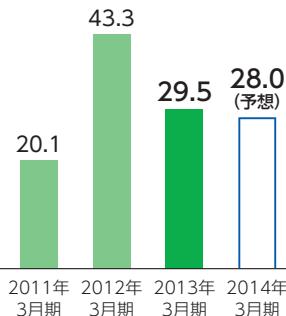
次期予想

555.0 億円

前期比 32.0億円増↑

経常利益

(億円)



当期実績

29.5 億円

前期比 13.8億円減↓

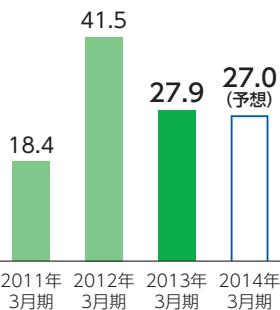
次期予想

28.0 億円

前期比 1.5億円減↓

営業利益

(億円)



当期実績

27.9 億円

前期比 13.5億円減↓

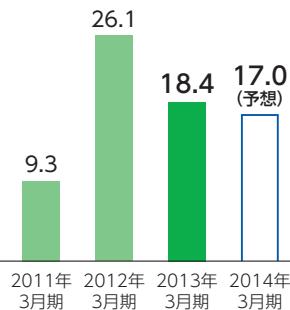
次期予想

27.0 億円

前期比 0.9億円減↓

当期純利益

(億円)



当期実績

18.4 億円

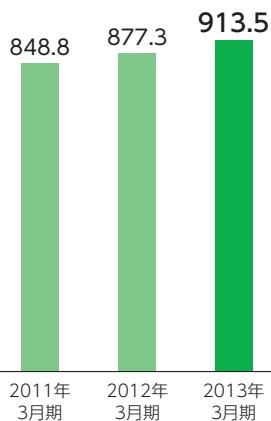
前期比 7.6億円減↓

次期予想

17.0 億円

前期比 1.4億円減↓

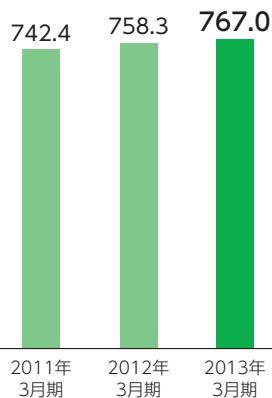
総資産 (億円)



現金及び現金同等物期末残高 (億円)

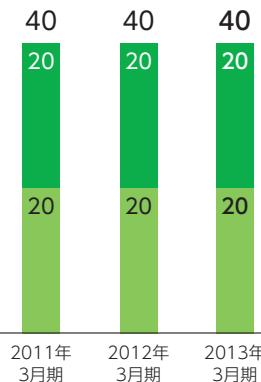


純資産 (億円)



1株当たり配当金 (円)

■ 中間 ■ 期末



将来に関する記述等についてのご注意

本資料に記載しております業績見通し等の将来に関する記述は、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、リスクや不確実な要素を含んでおり、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。したがって、実際の業績等は、様々な要素により、これらの業績見通し等とは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果に関わらず、常に当社が、将来の見直しを見直すとは限りません。

なお、現時点において、実際の業績等に影響を与えうるリスクや不確実な要素としては、以下のような事項を挙げることができます。(かかるリスクや不確実な要素はこれらの事項に限定されるものではありません。)

- 薬事法その他の法令または規制の変化
- 薬価の改定
- 副作用の発現
- 研究開発の遅延または中止
- 製商品の供給停止
- 訴訟の提起

営業の概況

■ 主要製品・商品の売上高

(単位：百万円)

品名	前期	当期	対前期増減 (率：%)
	自 2011年4月 1日 至 2012年3月31日	自 2012年4月 1日 至 2013年3月31日	
レミッチカプセル【経口そう痒症改善剤】	9,735	12,106	2,371 (24.4)
ツルバダ配合錠【抗ウイルス化学療法剤 (抗HIV薬)】	9,945	11,594	1,648 (16.6)
アンテベート【外用副腎皮質ホルモン剤】	6,584	6,766	182 (2.8)
注射用フサン【蛋白分解酵素阻害剤】	5,131	4,533	△597 (△11.6)
ユリノーム錠【尿酸排泄薬 (高尿酸血症治療剤)】	3,238	2,751	△487 (△15.0)

■ 主要製品・商品の紹介

レミッチカプセル

経口そう痒症改善剤



血液透析患者の既存治療抵抗性の痒み（従来の止痒薬では効き目が不十分な痒み）を改善する薬剤です。

ツルバダ配合錠

抗ウイルス化学療法剤 (抗HIV薬)



HIV逆転写酵素を特異的に阻害することによりHIVの増殖を阻害する薬剤です。

アンテベート

外用副腎皮質ホルモン剤



アトピー性皮膚炎や接触皮膚炎などの皮膚疾患に対して炎症を抑えることによって症状を改善する薬剤です。

注射用フサン

蛋白分解酵素阻害剤



急性膵炎や汎発性血管内血液凝固症を治療する薬剤です。また、血液透析などの血液浄化療法を施行する際に回路内で血液を固まらないようにする薬剤でもあります。

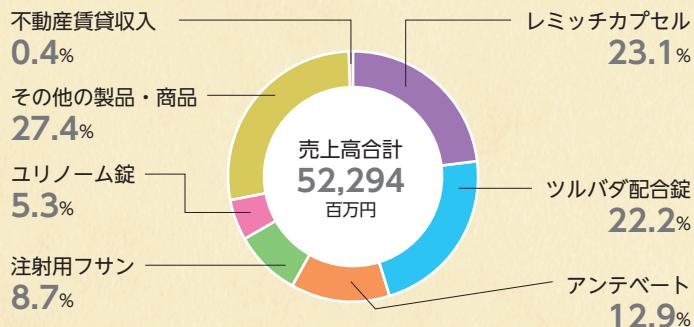
ユリノーム錠

尿酸排泄薬 (高尿酸血症治療剤)



体内で増えた尿酸を尿中に排泄して高尿酸血症を改善する薬剤です。

■ 当期売上高構成比



財務諸表

貸借対照表 (要旨)

(単位：百万円)

科 目	前 期	当 期
	2012年3月31日現在	2013年3月31日現在
● 資産の部		
流動資産	70,352	71,492
固定資産	17,382	19,857
有形固定資産	5,297	5,652
無形固定資産	704	639
投資その他の資産	11,380	13,566
資産合計	87,734	91,350
● 負債の部		
流動負債	11,231	13,969
固定負債	670	680
負債合計	11,902	14,650
● 純資産の部		
株主資本	75,624	76,341
資本金	5,190	5,190
資本剰余金	6,416	6,416
利益剰余金	64,876	65,594
自己株式	△ 857	△ 858
評価・換算差額等	208	358
その他有価証券評価差額金	208	358
純資産合計	75,832	76,700
負債純資産合計	87,734	91,350

損益計算書 (要旨)

(単位：百万円)

科 目	前 期	当 期
	自 2011年4月 1日 至 2012年3月31日	自 2012年4月 1日 至 2013年3月31日
売上高	48,717	52,294
売上原価	20,539	22,841
売上総利益	28,178	29,452
販売費及び一般管理費	24,024	26,658
営業利益	4,153	2,794
営業外収益	187	215
営業外費用	2	57
経常利益	4,338	2,952
特別利益	810	—
特別損失	93	22
税引前当期純利益	5,054	2,929
法人税等	2,443	1,079
当期純利益	2,611	1,849

キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

(単位：百万円)

科 目	前 期	当 期
	自 2011年4月 1日 至 2012年3月31日	自 2012年4月 1日 至 2013年3月31日
営業活動による キャッシュ・フロー	3,040	151
投資活動による キャッシュ・フロー	3,151	874
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 1,154	△ 1,181
現金及び現金同等物の 増減額 (△は減少)	5,038	△ 154
現金及び現金同等物の 期首残高	12,344	17,382
現金及び現金同等物の 期末残高	17,382	17,228

主な研究開発品の状況

スギ花粉症に対する舌下免疫療法薬「TO-194SL」につきましては、2012年12月25日に日本国内における製造販売承認申請を行っております。また、日本たばこ産業株式会社（以下JT）と共同で開発を進めてきた高リン血症治療薬「JTT-751」につきましても、本年1月7日にJTが日本国内における製造販売承認申請を行っております。

さらに、ALK-Abelló A/S（以下ALK社）から導入したダニを抗原とするアレルギー疾患を対象にした免疫療法薬「TO-203（舌下錠）」および「TO-204（注射剤）」につきましては、それぞれ国内第Ⅱ/Ⅲ相臨床試験、国内第Ⅲ相臨床試験を実施しております。

なお、2012年度の研究開発費の総額は、7,824百万円となりました。

領域	開発番号	予定適応症等	剤形等	国内開発段階	備考
腎・透析領域	JTT-751	高リン血症	経口剤	申請	<ul style="list-style-type: none"> • Keryx Biopharmaceuticals, Inc.と日本における独占的開発・商業化権に関するライセンス契約を締結 • JTとの共同開発 • JTが2013年1月7日に製造販売承認申請
アレルギー領域	TO-194SL	スギ花粉症 (免疫療法薬)	舌下液	申請	<ul style="list-style-type: none"> • 自社開発 • 2012年12月25日に製造販売承認申請
	TO-203	ダニを抗原とするアレルギー疾患（喘息およびアレルギー性鼻炎）	舌下錠	PhaseⅡ/Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> • ALK社と日本における独占的開発・販売権に関するライセンス契約を締結 • 自社開発
	TO-204	(免疫療法薬)	注射剤	PhaseⅢ	

PhaseⅠ（第Ⅰ相臨床試験）：少数の健康な方を対象として、治験薬の安全性を確認します。

PhaseⅡ（第Ⅱ相臨床試験）：少数の患者さんを対象として、治験薬の有効性や安全性とともに、投与する量や方法などを確認します。

PhaseⅢ（第Ⅲ相臨床試験）：多数の患者さんを対象として、治験薬と既存薬またはプラセボ（偽薬）との比較試験により、有効性や安全性を確認します。

免疫療法とは？

アレルギーの原因抗原を、少量から徐々に増やしながら継続して投与することで、アレルギー反応を減弱させて症状を出にくくさせる治療法です。

日本では現在、注射による治療のみが健康保険の適応となっています。当社では、より利便性の高い舌下投与による免疫療法薬の開発に取り組んでいます。



トピックス

抗HIV薬「スタリビルド配合錠」新発売



当社は、抗HIV薬「スタリビルド配合錠」について、2013年5月14日に販売を開始いたしました。本配合錠は、エルビテグラビル150mg、コビスタット150mg、エムトリシタビン200mg、テノホビル ジソプロキシルフマル酸塩300mgの配合錠です。

現在のHIV感染症治療は、複数の抗HIV薬を組み合わせる多剤併用療法が標準となっています。多剤併用療法による治療を成功させるためには、長期にわたって高い服薬率を維持する必要があり、また、服薬遵守が不十分な場合には薬剤耐性ウイルスの出現を促すおそれがあることから、服薬が簡便な新規薬剤が望まれていました。

「スタリビルド配合錠」は、HIV感染症の多剤併用療法に用いる薬剤としては、日本で初めての、他剤と併用することなく1日1回1錠の服薬で治療を行う抗HIV薬であり、患者様の服薬利便性を改善することで長期的な服薬遵守の向上が期待できます。

株式の状況 (2013年3月31日現在)

株式数

発行可能株式総数	54,000,000株
発行済株式総数	28,800,000株

株主数

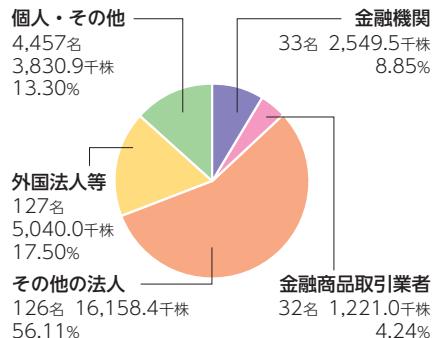
株主数 (単元未満株主を含む)	4,775名
-----------------	--------

大株主

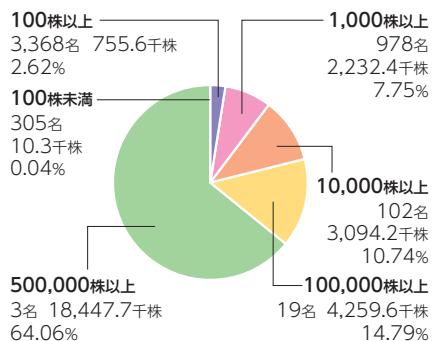
株主名	持株数 千株	持株比率 %
日本たばこ産業株式会社	15,398.8	53.46
ロイヤルバンクオブカナダトラストカンパニー (ケイマン) リミテッド	2,001.7	6.95
立花証券株式会社	1,047.2	3.63
ビービーエイチ フォー フィデリティ ロー プライズド ストック ファンド (プリンシパル オール セクター サポートフォリオ)	483.8	1.67
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	415.5	1.44
ノーザントラストカンパニー エイブイエフシー リューエス タックス エグゼンプテッド ペンション ファンズ セキュリティ レンディング	345.6	1.20
株式会社三井住友銀行	340.8	1.18
CBNY DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	306.6	1.06
鳥居薬品従業員持株会	250.8	0.87
株式会社みずほ銀行	210.0	0.72

(注) 上記の他、当社が保有する自己株式数は499.0千株 (持株比率1.73%) であります。

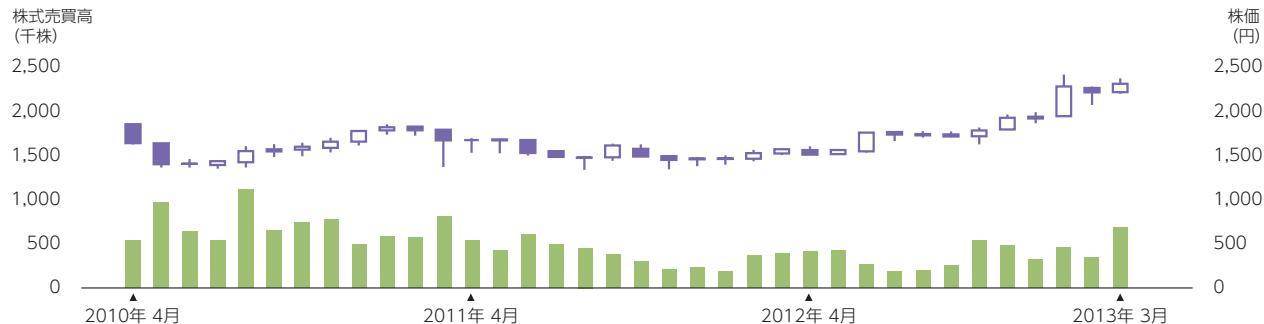
所有者別株式分布状況



所有数別株式分布状況



株価および株式売買高の推移 (2010年4月~2013年3月)



会社の概要

会社概要 (2013年3月31日現在)

商号	鳥居薬品株式会社
設立	1921年(大正10年)11月1日
資本金	5,190百万円
主要な事業内容	医薬品の製造・販売
従業員数	969名 (注)従業員数は、当社から他社への出向者を除き、他社から当社への出向者を含む就業人数であります。
本社	〒103-8439 東京都中央区日本橋本町3-4-1 トリイ日本橋ビル TEL: 03-3231-6811 (代表)
主な事業所	札幌支店、仙台支店、北関東支店(高崎)、 南関東支店(さいたま)、東京支店、横浜支店、 名古屋支店、京都支店、大阪支店、神戸支店、 高松支店、広島支店、福岡支店、南九州支店(熊本)、 佐倉工場、研究所(佐倉工場内)

取締役・監査役および執行役員 (2013年6月20日現在)

取締役 会長	松尾 紀彦
代表取締役社長	高木 正一郎
代表取締役副社長	金谷 宏
専務取締役	籠橋 雄二
常務取締役	田村 明彦
常務取締役	梅田 高弘
取締役	假屋 ゆう子
取締役	鳥養 雅夫
常勤監査役	長 誠次
常勤監査役	矢部 昌平
監査役	會澤 恒
執行役員	林 秀岳
執行役員	相川 由幸
執行役員	古谷 幸友
執行役員	千葉 昌
執行役員	末吉 廣忠
執行役員	藤原 勝伸
執行役員	太田 尚
執行役員	野田 優

- (注) 1. 取締役 鳥養 雅夫は、社外取締役であります。
 (注) 2. 監査役 長 誠次、會澤 恒は社外監査役であります。
 (注) 3. 取締役 鳥養 雅夫、監査役 會澤 恒は東京証券取引所の規則に定める独立役員として同取引所に届け出ております。

ホームページのご案内

当社ホームページの「株主・投資家の皆様へ」のコンテンツでは、決算短信等のIR情報をご覧いただけます。

<http://www.torii.co.jp/ir/index.html>

トップページ ▶ 株主・投資家の皆様へ



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会・期末配当：毎年3月31日 中間配当：毎年9月30日
公告方法	日本経済新聞に掲載
株主名簿管理人および 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先 (電話照会先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 TEL 0120-782-031 (フリーダイヤル) 取次事務は三井住友信託銀行株式会社の本店および 全国各支店で行っております。

▶ 住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。
なお、証券会社等に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

▶ 未払配当金の支払について

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

